

会員各位

「JSPE 活動メニューについて」 会員アンケート回答結果報告

2018年10月31日

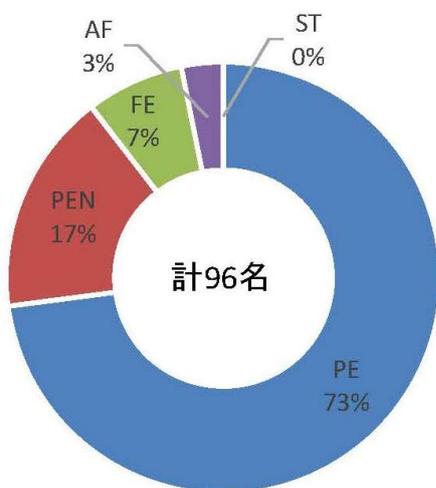
実施方法：クラウドアンケートツール(SurveyMonkey)を用いて、会員にメール配信

実施時期：2018年9月30日 - 10月20日

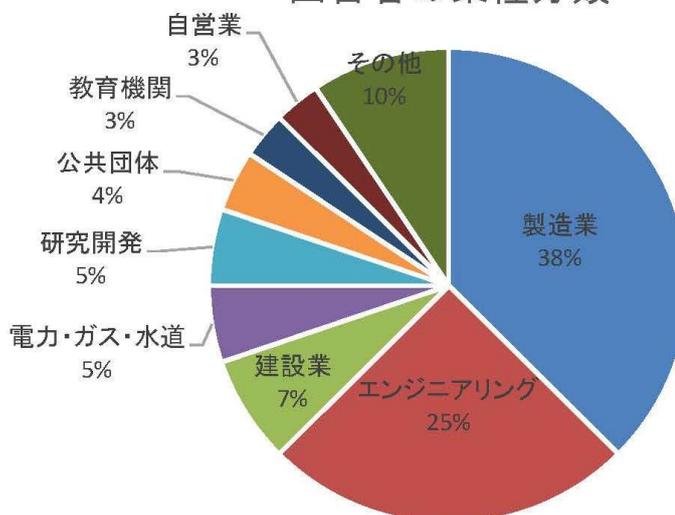
回答総数：96件（全会員数 356 に対し 回答率 27%）

回答者情報

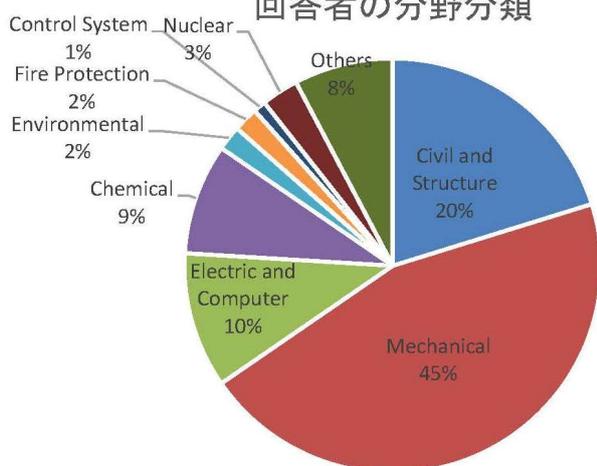
回答者の会員区分



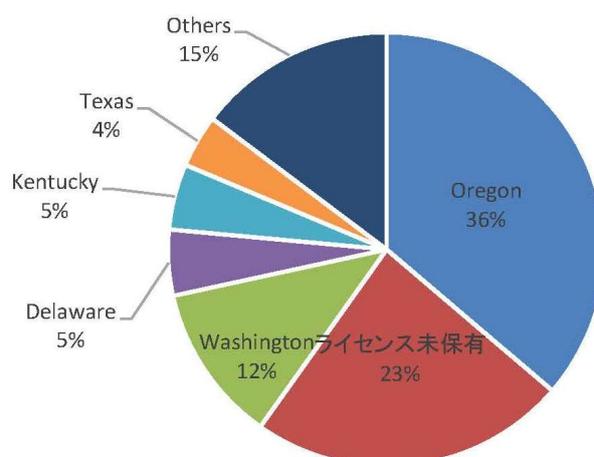
回答者の業種分類



回答者の分野分類



回答者の登録州分類



Q1. 教育セミナー活動について

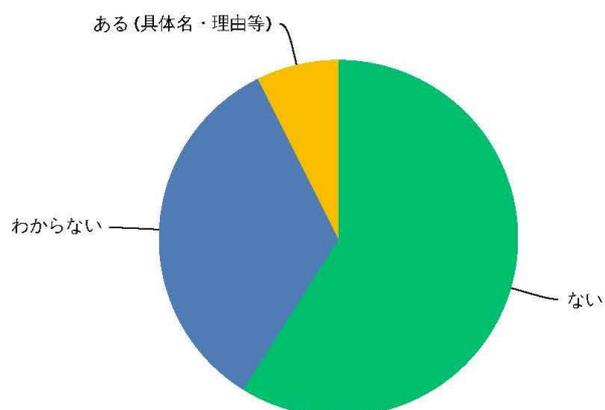
【設問文】

現在 JSPE では、ほぼ毎月、東京と神戸において次のセミナー行事を開催し、会員および非会員の方に参加頂いています。

技術 CPD セミナー/PEにPMP 鬼金セミナー/エンジニアズサロン/JSPE Day(9月) / 施設見学会 /

Q.1-1 セミナー行事類のうち、統合あるいは廃止してもよいとお考えのもの

Answered: 95 Skipped: 1



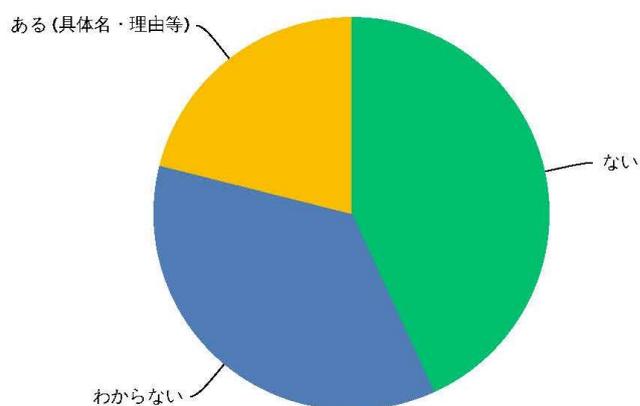
回答の選択肢	回答数	割合
ない	56	58.95%
わからない	32	33.68%
ある(具体名・理由等)	7	7.37%
合計	95	

【自由記述回答の概要（各回答の全文は本書巻末参照）】

- 鬼金セミナー関連 5件
- エンジニアサロン関連 1件
- その他 1件

Q.1-2 セミナー行事類以外に新設等して欲しいとお考えのもの

Answered: 95 Skipped: 1



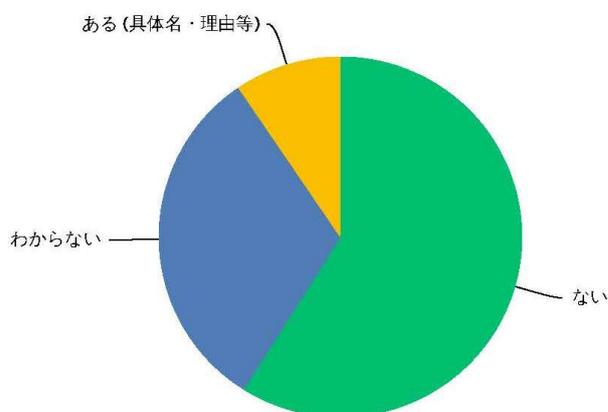
回答の選択肢	回答数	
ない	43.16%	41
わからない	35.79%	34
ある(具体名・理由等)	21.05%	20
合計		95

【 自由記述回答の概要（各回答の全文は本書巻末参照） 】

- 米国PEとの交流あるいは英語でのセミナー 6件
- 異業種や他学協会との交流、施設見学会 5件
- 教育プログラムの立案関連 1件
- オンライン交流、会員交流 7件
- PE受験登録対策など 1件

Q.1-3 セミナー行事類の中で、講師として発信したいテーマ等

Answered: 95 Skipped: 1



回答の選択肢	回答数
ない	56
わからない	30
ある(具体名・理由等)	9
合計	95

【 自由記述回答の概要（各回答の全文は本書巻末参照） 】

- 技術経営、人材育成 2件
- 海外でのエンジニアリング実務 3件
- プロジェクトマネジメント 1件
- 内外エネルギー動向 1件
- 特定の技術 2件

Q2. 会員交流活動について

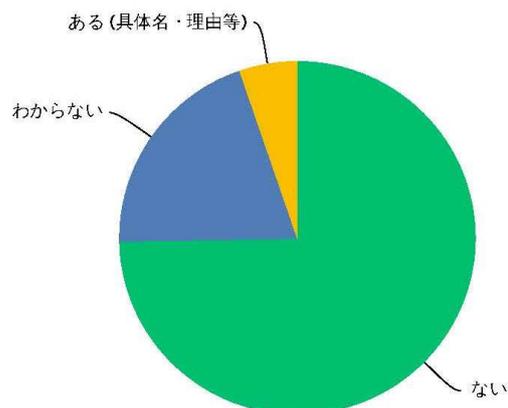
【設問文】

現在 JSPE では、次のような会員交流活動を随時実施しています。

PE・FE 受験登録説明会 / イヤーエンドパーティ / メンタリング活動 /

Q.2-1 会員交流活動類のうち、統合あるいは廃止してもよいとお考えのもの

Answered: 95 Skipped: 1



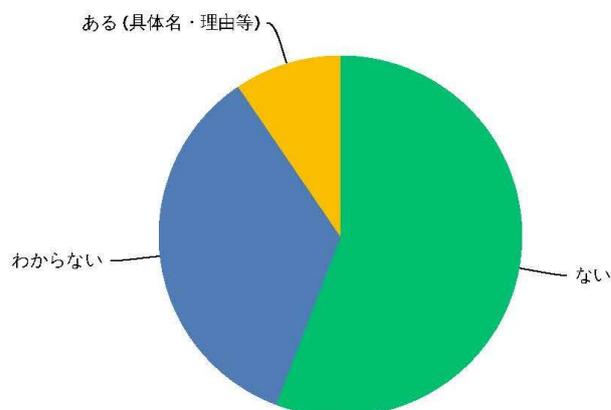
回答の選択肢	回答数
ない	74.74% 71
わからない	20.00% 19
ある (具体名・理由等)	5.26% 5
合計	95

【 自由記述回答の概要（各回答の全文は本書巻末参照） 】

- イヤーエンドパーティ 2件
- メンタリング活動 3件

Q.2-2 現状の会員交流活動類以外に新設等して欲しいとお考えのもの

Answered: 95 Skipped: 1



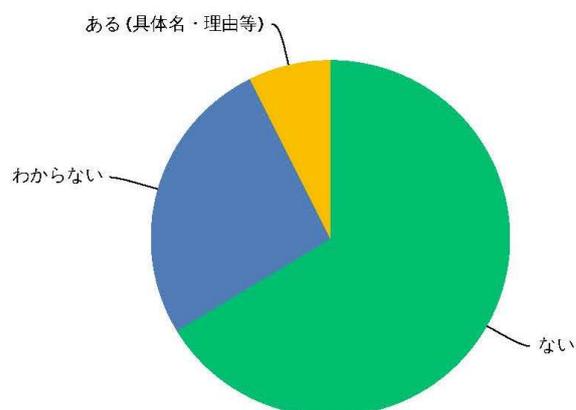
回答の選択肢	回答数	割合
ない	53	55.79%
わからない	33	34.74%
ある(具体名・理由等)	9	9.47%
合計	95	

【 自由記述回答の概要（各回答の全文は本書巻末参照） 】

- オンライン会員間交流、地方での会員交流 5件
- 米国PEとの交流会 3件
- ウェブセミナー 1件

Q.2-3 会員交流活動類の中で、リーダーとして発信したいテーマ等

Answered: 95 Skipped: 1



回答の選択肢	回答数	割合
ない	63	66.32%
わからない	25	26.32%
ある(具体名・理由等)	7	7.37%
合計	95	

【 自由記述回答の概要（各回答の全文は本書巻末参照） 】

- PE受験登録説明 3件
- 米国や海外におけるエンジニアリング実務 2件
- 技術経営 ほか 2件

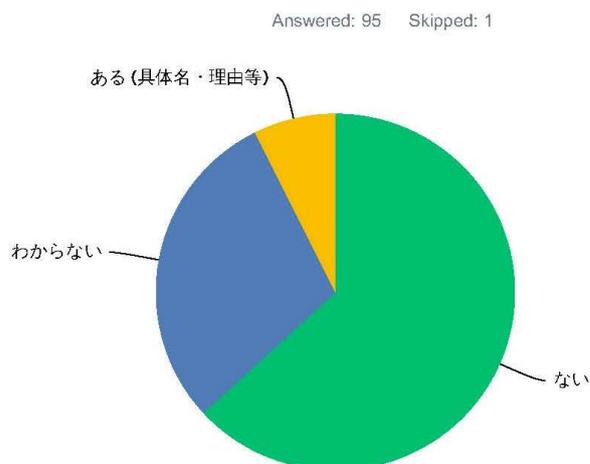
Q3. 調査研究活動について

【設問文】

現在 JSPE では、次のような調査研究活動を随時実施しています。

NSPE(全米 PE 協会)との交流 / JABEE(日本技術者教育認定機構)との交流 / シラバス評価英訳支援活動 / 協力団体との交流 / NSPE Code of Ethics 和訳 / その他時事に応じたテーマ等

Q.3-1 調査研究活動類のうち、統合あるいは廃止してもよいとお考えのもの



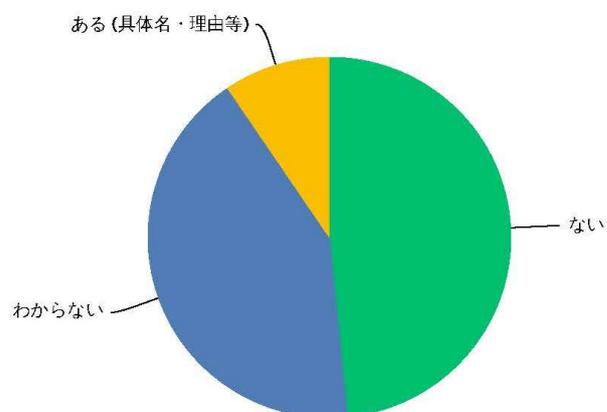
回答の選択肢	回答数	割合
ない	60	63.16%
わからない	28	29.47%
ある(具体名・理由等)	7	7.37%
合計	95	

【自由記述回答の概要（各回答の全文は本書巻末参照）】

- NSPEおよびJABEEとの連携 3件
- NSPEエシックスの和訳 1件
- シラバス英訳支援 1件
- その他 2件

Q.3-2 現状の調査研究活動類以外に新設等して欲しいとお考えのもの

Answered: 95 Skipped: 1



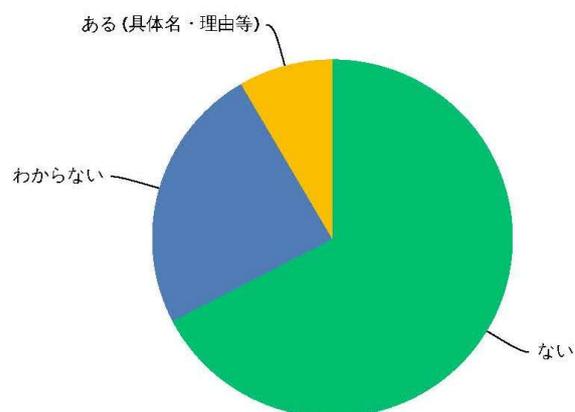
回答の選択肢	回答数
ない	48.42% 46
わからない	42.11% 40
ある(具体名・理由等)	9.47% 9
合計	95

【 自由記述回答の概要（各回答の全文は本書巻末参照） 】

- 米国PEとの交流、NSPE Engineering知識体系(EBOK)の掘り下げ 2件
- PEライセンス活用法、技術経営 2件
- 他学協会との連携 3件
- PEと技術士との相互認証調査 1件
- 一般へのエンジニアリングサービス提供 1件

Q.3-3 調査研究活動類の中で、リーダーとして取り組みたいテーマ等

Answered: 95 Skipped: 1



回答の選択肢	回答数	割合
ない	64	67.37%
わからない	23	24.21%
ある(具体名・理由等)	8	8.42%
合計	95	

【 自由記述回答の概要（各回答の全文は本書巻末参照） 】

- JABEEとの連携 3件
- PMIとの連携 1件
- 米国PEとの交流、NSPE Engineering知識体系(EBOK)の掘り下げ 2件
- PEライセンス活用法、技術経営 1件

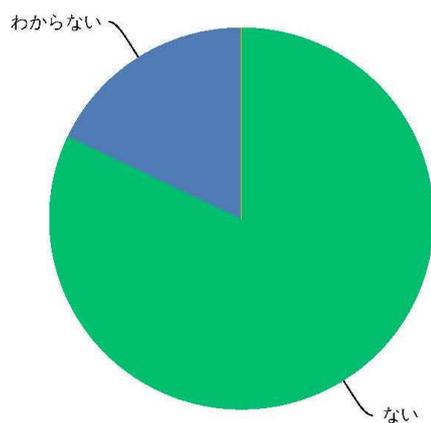
Q4. ウェブサイト等情報発信について

【設問文】

現在 JSPE では、ウェブサイト jspe.org を通じて米国 PE 制度に関する情報発信やセミナー行事類の告知等を行っております。

Q.4-1 ウェブサイト掲載内容のうち、統合あるいは廃止してもよいとお考えのもの

Answered: 95 Skipped: 1



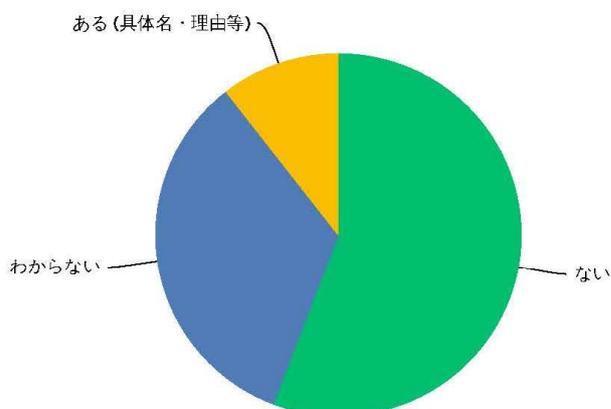
回答の選択肢	回答数
ない	82.11% 78
わからない	17.89% 17
ある (具体名・理由等)	0.00% 0
合計	95

【 自由記述回答の概要（各回答の全文は本書巻末参照） 】

(なし)

Q.4-2 ウェブサイトに新たに掲載等して欲しいとお考えのもの

Answered: 95 Skipped: 1



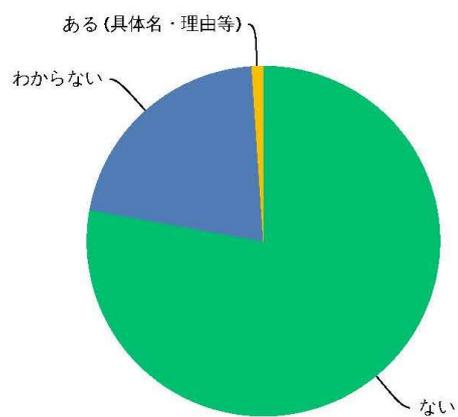
回答の選択肢	回答数	割合
ない	53	55.79%
わからない	32	33.68%
ある (具体名・理由等)	10	10.53%
合計	95	

【 自由記述回答の概要（各回答の全文は本書巻末参照） 】

- オンライン会員交流 3件
- JSPEおよび米国PEの活動状況 2件
- PE登録に関する諸情報 2件
- 記事検索機能、JSPEマガジン記事の一般公開 3件

Q.4-3 ウェブサイト上に、あなた自身がリーダーとして取り組みたい テーマ等

Answered: 95 Skipped: 1



回答の選択肢	回答数	割合
ない	74	77.89%
わからない	20	21.05%
ある (具体名・理由等)	1	1.05%
合計	95	

【 自由記述回答の概要（各回答の全文は本書巻末参照） 】

(なし)

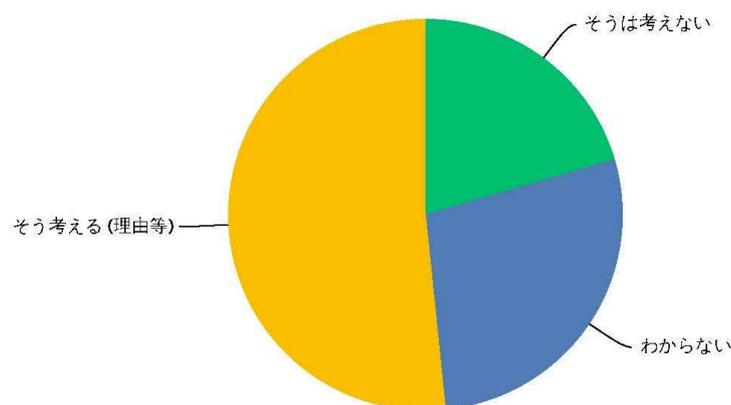
Q5. PE 制度に関する出版構想について（PE 制度のアピール方法について）

【設問文】

JSPE では、これまでに PE 受験 TIPS (2007 年) および日本人のための PE ハンドブック (2012 年) を会員配布用として刊行しておりますが、広く市販する書籍を刊行した実績がありません。米国 PE 制度を包括的解説した書籍が日本では未だ皆無に等しいようにも見られることから、そうした出版を JSPE として新たに企画してはどうかという話も理事会内では出ています。

Q.5-1 JSPE として米国PE 制度を包括的に解説する書籍の出版を企画すべき

Answered: 93 Skipped: 3



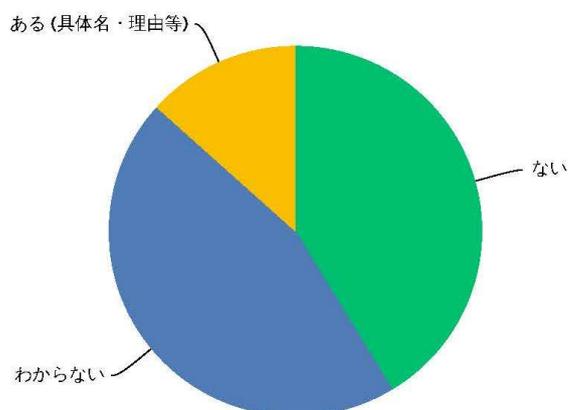
回答の選択肢	回答数
そうは考えない	20.43% 19
わからない	27.96% 26
そう考える (理由等)	51.61% 48
合計	93

【自由記述回答の概要（各回答の全文は本書巻末参照）】

- 類書がないかあっても古い 15件
- 国内PEの認知度、地位向上 27件
- 米国PEに限定せず、より幅広く 4件
- その他 2件

Q.5-2 あなた自身がその新書籍上で執筆したいテーマ等

Answered: 75 Skipped: 21



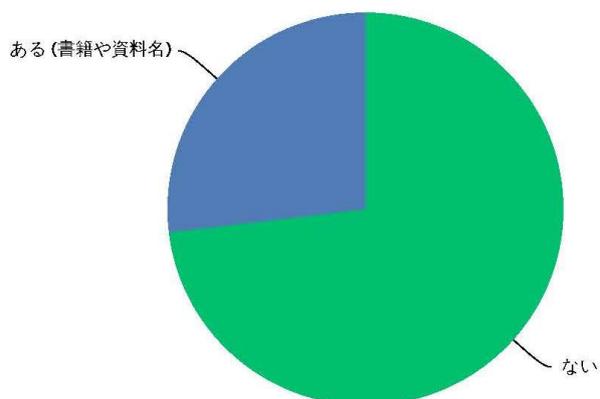
回答の選択肢	回答数	
ない	41.33%	31
わからない	45.33%	34
ある(具体名・理由等)	13.33%	10
合計		75

【 自由記述回答の概要（各回答の全文は本書巻末参照） 】

- PEの倫理、権利、義務、責任 3件
- これまでのシラバス英訳支援の成果 2件
- その他 5件

Q.5-3 米国PE 制度を他の方に説明する必要が生じた場合等にあなたが
日頃参照される書籍や資料など

Answered: 93 Skipped: 3



回答の選択肢	回答数	
ない	73.12%	68
ある (書籍や資料名)	26.88%	25
合計		93

【 自由記述回答の概要（各回答の全文は本書巻末参照） 】

- ウェブサイト 11件
- 書籍、雑誌記事 10件
- JSPE内部資料 2件
- 勤務先の内部資料 1件

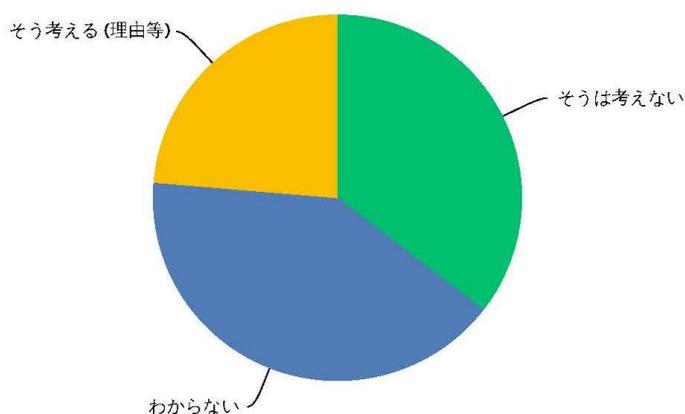
Q6. 協会運営について

【設問文】

JSPE では財政規模がまだ小さいことから、常駐職員を置かず、会員有志が理事・監事となって NPO 法人としての運営を行っております。また、JSPE の活動は定款第 3 条から 5 条に定められた目的、活動種類および事業区分に基づいて展開しております(資料 1 参照)。

Q.6-1 NPO 法人格を維持していく上で、常駐職員を置くべき

Answered: 93 Skipped: 3



回答の選択肢	回答数	割合
そうは考えない	33	35.48%
わからない	38	40.86%
そう考える (理由等)	22	23.66%
合計	93	

【 自由記述回答の概要 (各回答の全文は本書巻末参照) 】

Q.6-1 NPO 法人格を維持していく上で、常駐職員を置くべき

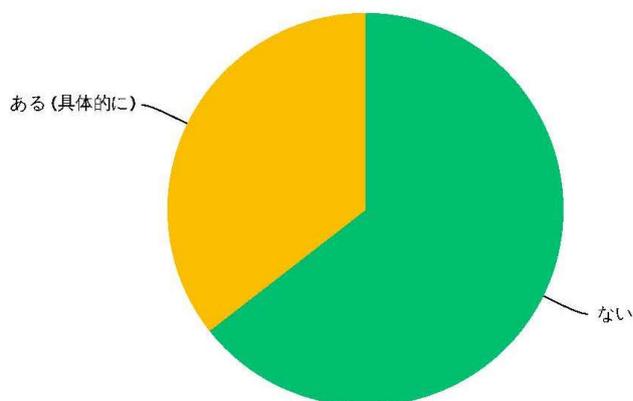
- 理事の業務負担軽減 15件
- 会員等へのタイムリーな対応 4件
- 必ずしもそうではない 3件

Q.6-2 置くべきではない理由等

- 職員雇用のコスト負担が過大 14件
- 常勤でなく非常勤なら検討してもよいか 4件
- もっと規模が大きくなってからでよい 1件
- 適切な人材の発掘が困難 1件
- 現状の理事ボランティアでよい 11件

Q.6-3 常駐職員を置くことができるか何かアイデア等

Answered: 45 Skipped: 51



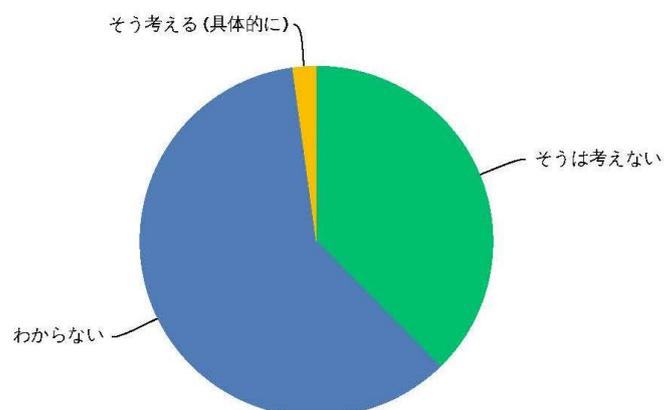
回答の選択肢	回答数
ない	64.44% 29
わからない	0.00% 0
ある(具体的に)	35.56% 16
合計	45

【 自由記述回答の概要（各回答の全文は本書巻末参照） 】

- 定年退職会員の協力 2件
- パートタイマーの協力 4件
- 企業や大学の協力 6件
- 会費の値上げ 2件
- その他 2件

Q.6-4 目的、活動種類および事業区分について改正すべき

Answered: 93 Skipped: 3



回答の選択肢	回答数	
そうは考えない	37.63%	35
わからない	60.22%	56
そう考える (具体的に)	2.15%	2
合計		93

【 自由記述回答の概要（各回答の全文は本書巻末参照） 】

- 一般へのエンジニアリングサービス提供 1件
- その他 1件

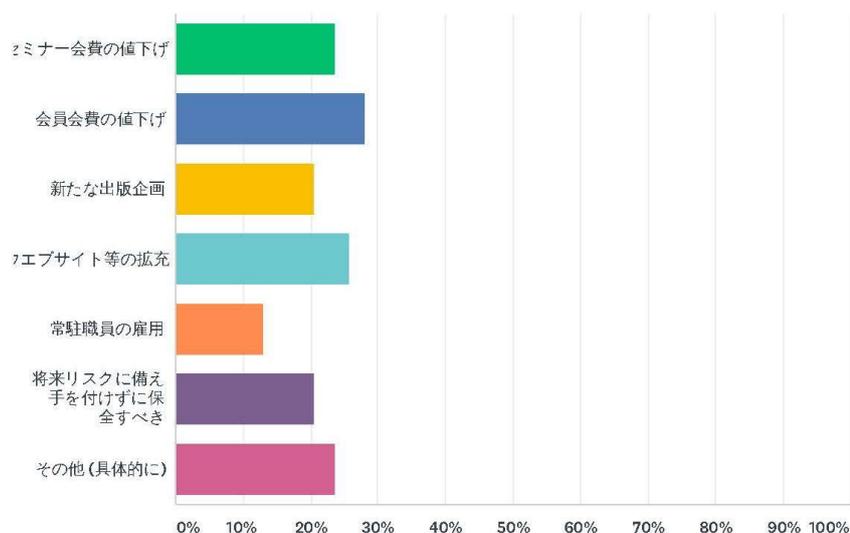
Q7. 資産活用および会費について

【設問文】

2018年3月末時点でJSPEは約800万円の現金資産を保有しています(資料3参照)。一方、会員となっている方々(約350名)からは毎年6000円(AF会員)から12000円(PE会員)の会費納入をお願いしています。

Q. 7-1 現金資金の活用策としてその他

Answered: 93 Skipped: 3



回答の選択肢	回答数
セミナー会費の値下げ	22
会員会費の値下げ	26
新たな出版企画	19
ウェブサイト等の拡充	24
常駐職員の雇用	12
将来リスクに備え手を付けずに保全すべき	19
その他(具体的に)	22
回答数: 93	

【自由記述回答の概要(各回答の全文は本書巻末参照)】

- 会費の値下げはすべできない 4件
- 会費の値下げ 3件
- ウェブセミナー、オンライン会員交流への投資 4件
- 準常駐職員の雇用 1件
- セミナー活動への投資 5件
- 対外交流、新規調査などへの投資 5件

Q8. PE 資格保持者としての社会貢献について

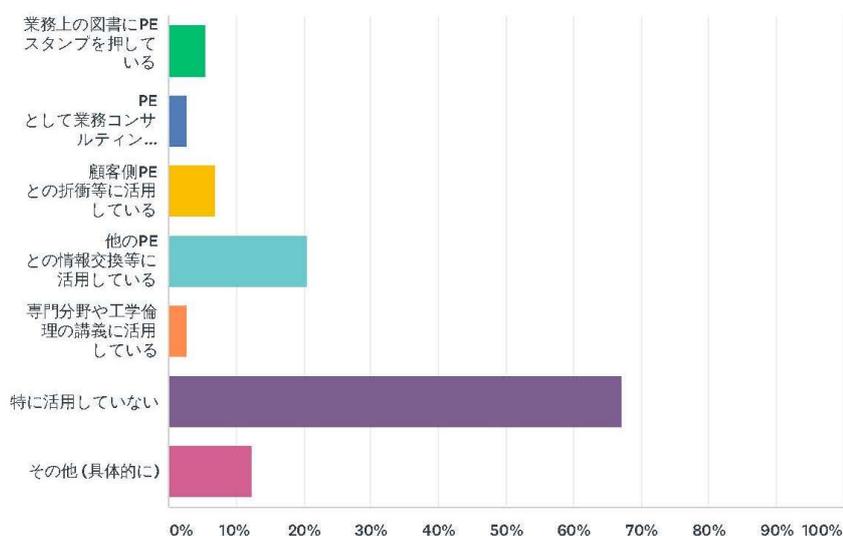
【設問文】

2016年に米国PE登録を持つ会員に「なぜPEを取得したのか」とアンケート調査を行ったところ、次のような結果でした。(ウェブサイトのJSPEトップ/PE受験登録に興味のある方へ参照)

一方、あくまで米国各州のライセンスであるため、国内での法的位置づけはまだ無く、業務でPEスタンプを設計図書に押した会員はほとんどいないという現状もあります。

Q.8-1 PE登録を実際の業務等で活用している。その他

Answered: 73 Skipped: 23



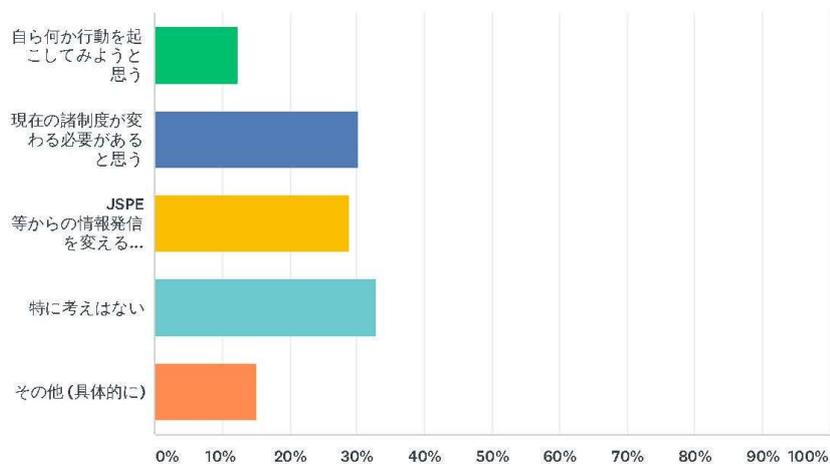
回答の選択肢	回答数
業務上の図書にPEスタンプを押している	4
PEとして業務コンサルティングを行っている	2
顧客側PEとの折衝等に活用している	5
他のPEとの情報交換等に活用している	15
専門分野や工学倫理の講義に活用している	2
特に活用していない	49
その他(具体的に)	9
回答数: 73	

【自由記述回答の概要（各回答の全文は本書巻末参照）】

- PEスタンプを押す 3件
- PEと名刺に書く 3件
- 国内企業へのコンサルティング 1件
- PE登録申請者へのリファレンス 1件
- その他 1件

Q.8-2 PE 登録活用による社会貢献範囲を拡大しようとする場合の活動。その他

Answered: 73 Skipped: 23



回答の選択肢	回答数
自ら何か行動を起こしてみようと思う	9
現在の諸制度が変わる必要があると思う	22
JSPE等からの情報発信を変える必要があると思う	21
特に考えはない	24
その他(具体的に)	11
回答数: 73	

【 自由記述回答の概要（各回答の全文は本書巻末参照） 】

- 一般へのエンジニアリングサービス提供 1件
- 国内技術者制度の改革 4件
- メディアへの露出促進など 3件
- まだ何とも言えない 3件

Q9. 以上の設問等に関連して、他にご意見などありましたらご記入下さい

【 自由記述回答の概要（各回答の全文は本書巻末参照） 】

- 理事中心から会員主導へ 2件
- 技術士との連携 2件
- 時事問題への意見発信 1件
- 会費の値下げ 1件
- 会員間交流 14件
- 合宿検討会の可否 1件

自由回答意見 全文

Q.1-1 セミナー行事類のうち、統合あるいは廃止してもよいとお考えのもの

- 鬼金セミナー関連 5件
 - PMPセミナーの受講者数は多いのですか？少なく負担になるのなら休止してはどうでしょうか。バージョンが変わったら再開すればよいと思います。
 - PMPセミナーの統合。 やるとしてもPMIでやっているような内容、例えばPMBOKの解説などではなく、より技術的かつ実務的なセミナーとする。PMBOK関連ならばPMIで受講可能。
 - 鬼金の前後に30分程度の技術セミナーを入れれば、鬼金に興味のない会員も満足感を得られると思います。ただ講師をお願いするのが大変だと思いますが
 - 鬼金講座が多くなり、他のテーマが少なくなり、鬼金に興味のない人間にとっては、足が遠のいてしまいました。前回神戸で「触媒」の話があった時に参加させてもらいました。自分とは違った分野でのその分野の一人者と少ない人数で討議ができるのは、大変興味がありました。
 - 技術CPDセミナーと鬼金セミナーはそれぞれ興味のある方のみしか参加しないため統合したセミナーにし参加しやすいようにしてみたらいかか。
- エンジニアサロン関連 1件
 - 運営者目線だが、エンジニアズサロンなど部会運営と切り離して運営することがあってもいいと思う
- その他 1件
 - いきなり統合廃止を問うのは如何なものか？現状セミナーのテーマ/参加者/費用などの実績を一覧表の形で提示するなど情報を元に考えてみたいと思います。まさに教育部会が検討すべきことかもしれませんが？

Q.1-2 セミナー行事類以外に新設等して欲しいとお考えのもの

- 米国PEとの交流あるいは英語でのセミナー 6件
 - It might be useful to have some events in English, but if I'm the only English speaking member, then I can understand not doing so.
 - SAMEとの定期連携
 - 米国PEとの相互セミナー開催による交流活動、
 - 技術英語セミナー
 - 具体的な明示はできないが、必ずあると思う。年々JSPEの視野・目線が低下しているような印象を感じる。特に海外に積極的に出かける経験者、また意欲のある会員数が減少していることも大きい
 - 人材育成に関するセミナー(特にグローバルな)
- 異業種や他学協会との交流、施設見学会 5件
 - PEを持たれている方は、それぞれの専門分野では、第一人者の方々と思われます。そういう分野(エンジニアリング)ではなく、全くの異業種分野が個人的にはなかなかアクセスできないところではないかと思えます。例えば医療、介護、教育など。 そのような分野との接触に興味あります。(見学会とか、・・・)
 - 他関連協会主催のセミナーへの積極的参加。例えば土木学会、建築学会、他産業学会など。
 - いろいろな学協会でセミナーを実施していますので、協賛という形でコラボしてみたらいかかでしょうか。地方開催でやっているものにCPDを付与すれば出席者も増えると思います。
 - すでに年一回見学会を実施しているが、これも部会運営と切り離して、会員がオフ会のような位置づけでフレキシブルに運営し、頻度を増やしてもいいと思う
 - 見学会
- 教育プログラムの立案関連 1件
 - 議論テーマのカバーすべき領域を考えたときの参考としてNational Academy of Engineers, 2020 Vision (<http://www.nap.edu/catalog/10999/the-engineer-of-2020-visions-of-engineering-in-the-new>)に記載されたべきエンジニアの要件を考えてみてはどうか？ ここで言いたいことの趣旨はPMBOK最新版で追加されたTalent Triangleで表された3領域とも関係する。
<https://www.pmi.org/learning/training-development/talent-triangle>
すなわちTechnical Project Management Skill, Strategic Business Management, Leadershipとも関連すると思う。最も難しいのが、最後のLeadershipであろう。これはとても難しい。難しいことは、JSPE自身をどう運営していくかという議論で皆さん十分に体験されていると思います。
 - 一般論ですが、PEが技術的知識・スキルのみにも重きを置いていると、その将来はないでしょう。これは弁護士・医師・会計士など「士」と名が付く職業が抱える喫緊の課題と考えたい。今この点が米国や英国でも大きな議論となりつつある。専門業務(その資格を保有するものだけに許される業務)の民主化運動についてももっと深掘してみる覚悟が必要。技術的知識・スキルだけに安住するのは最早許されない時代に入りつつあり。
- オンライン交流、会員交流 7件
 - SlackなどのコラボツールやZoomなどのオンライン会議システムを活用したオンラインサロンを新設。会員同士で技術的な話題を議論できる場所があると良いと思います。
 - ウェブセミナー
 - 会員同士の交流会があるとよいと思う。あるいは昔あった掲示板のようなもの。特にセミナーに来ない会員とは交流が少ないと思うので。
 - 専門分野別
 - 時限的なものでもいいと思うが、JSPEの対外発信や技術的な社会問題などについて討論できる場を年に何回か定期または不定期に設定する。急には無理でも何か対外発進できる方向に持っていくことが会の価値を高めると考えるから。
 - 具体的なアイデアまでは固まっていますが会員がリードする行事があってもよいと思います。

- 新設は運営される皆様の負荷もありますので、必ずしも実施しなくてもよいかと思ひます。アレンジも大変かと思ひますが、セミナーをウェブ参加できる機会を増やして頂けると、地方の方も参加しやすいのではないかと思ひます。

- PE受験登録対策など 1件
 - PE試験対策

Q.1-3 セミナー行事類の中で、講師として発信したいテーマ等

- 技術経営、人材育成 2件
- 海外でのエンジニアリング実務 3件
- プロジェクトマネジメント 1件
- 内外エネルギー動向 1件
- 特定の技術 2件

Q.2-1 会員交流活動類のうち、統合あるいは廃止してもよいとお考えのもの

- イヤーエンドパーティ 2件
 - イヤーエンドパーティ
 - これもいきなり統合廃止を問うているが、「本来の活動」があつての「懇親」なので、会員交流だけを取り上げてもあまり意味がないような気がする。「懇親」だけが目的であれば他にも機会はある。
- メンタリング活動 3件
 - メンタリング活動・個別の対応ではなく受験登録説明会や会合などの参加で情報を集めるべき。また、メンターの負担が大きくなる。逆にその負担は個別ではなくJSPE全体活動へ分配したほうが良いと思ひます。
 - メンタリング活動とシラバス英訳を統合してPE取得サポートにできないか？
 - 受験説明会は、理事や会員のネットワークも活用して多くの大学や高専に発信していくべき。イヤーエンドのみならず四季折々でそういう交流会はやれば良いと思ひます。

Q.2-2 現状の会員交流活動類以外に新設等して欲しいとお考えのもの

- オンライン会員間交流、地方での会員交流 5件
 - イベントに参加しにくい地方の会員(潜在的も含む)へのweb接続を前提としたセミナーや交流会。海外赴任でイベントに参加できなくて退会される方も減ると思ひます
 - セミナーのところに記載しましたが、会員発信の活動ができないか考えています。
 - 地方ごとの交流会
 - 半分技術セミナーであるが、会員講師によるJSPE Dayにもっと会員参加立候補が増えれば現状の単なるセミナーではなく、会員交流の色も出るのではないかと思ひます
 - 前の質問の解答として記載したオンラインサロン。日々の業務でぶつかるとであろう技術的な悩みを会員同士で相談できる場所が欲しいと思ひます。また、これを発展させ、会員以外の一般者向けにも技術的なコンサルティングサービスを提供できないでしょうか？
- 米国PEとの交流会 3件
 - 学生会員の就職とお花見のタイミングに合わせた野外交流会にSAMEなどの米国人協会を招待しての合同イベント等。
 - 具体的な案はないが、米国資格なのでNSPE総会以外にも、NSPEとの交流会や米国の技術見学会を企画してもいいのでは。毎年ではなくても。
 - 米国のエンジニアとの情報交換
- ウェブセミナー 1件
 - オンラインセミナーあるいはウェビナー

Q.2-3 会員交流活動類の中で、リーダーとして発信したいテーマ等

- PE受験登録説明 3件
 - (仮に私が発信するとすれば)PE州登録、GPDの私個人の一例について 私自身には特に発信すべきほどの特別な経験があるわけではありません。他の会員がどのように州登録をしたりCPDをしたりしているかは皆さん興味があるところだと思うので、その一例として私自身の経験を発信することはできると考えます。
 - PE/FE受験登録説明会(&地方での会員交流会)
 - PE登録の実際のプロセス(pen以下の会員の方でも試験は受けたけど、どこから手を出せばいいかわからない人もいるのではと思ひます。
- 米国や海外におけるエンジニアリング実務 2件
 - アメリカにおける建築工事プロジェクトの進め方について 理由:アメリカにおいてPEとして建築工事プロジェクトに関わる場合、プロジェクトの実際の流れに関する知識が必要となる。
 - 技術倫理、海外技術者体験情報など(自分では発信できないが、運営可能)→将来的に後述の出版と結びつける
- 技術経営 ほか 2件
 - 技術経営。技術者も経営を勉強すべき。日本企業は、概して研究開発を収益に結びつけることが苦手。その結果ジリジリ競争力を失っている。
 - 大きなテーマの中で専門分野があれば

Q.3-1 調査研究活動類のうち、統合あるいは廃止してもよいとお考えのもの

- NSPEおよびJABEEとの連携 3件
 - JABEEとの交流
 - JABEEとの交流についてはメリットが理解できない
 - NSPEとの交流会については承知していない。JABEEとの交流は何のメリットが見えない。廃止していいと思ひます。
- NSPEエシックスの和訳 1件

- NSPE Code of Ethics 和訳 ・ FE/PEを目指す方はこれぐらいの英文は読め、理解できると思います。JSPE活動として除いても問題ないかと。

- シラバス英訳支援 1件
 - 登録に際するシラバスの英訳は、自分でやるべき。自分のシラバスすら英訳できないようでは、ライセンス保有の意味が無いのでは。
- その他 2件
 - オレゴン州やワシントン州などJSPEと交流を深める州があってもいいと思う(NSPE総会で得られた情報)
 - 会員の声のみならず世界全体を見て、JSPEとしての「俯瞰図」を持つべきである。戦略会議は正にそのために開催すべき。それがぼやけていると何を調査するかも決められない。米国においてPE制度の存続そのものが問われているが、NSPEの主張のみならず、その時代背景や意見の多様性について調べてみてはどうか？是非やるべき…結論次第ではPE廃止論になってもよいくらいの気持ちで！我々の目的は「公共の福祉」であり「既得権の維持」ではないくらいの気持ちで…

Q.3-2 現状の調査研究活動類以外に新設等して欲しいとお考えのもの

- 米国PEとの交流、NSPE Engineering知識体系(EBOK)の掘り下げ 2件
 - 米国の州ボードとの個人間でなく協会間としての交流活動
 - 日本版EMBOKに関する調査研究
- PEライセンス活用法、技術経営 2件
 - PEの活かされ方(取得すべき理由、PE資格の必要性やメリットの実例(=どのような場面でサインを求められるか))
 - 技術経営。理由は前述の通り。
- 他学協会との連携 3件
 - 協力団体を広げたり、今後出資してもらうために企業や大学への出前セミナー
 - 学会との交流活動。例えば 日本機械学会では 技術士取得のための講習会を開催している。PEについても同じような活動ができないか。
 - 他の技術者資格協会との連携
- PEと技術士との相互認証調査 1件
 - 技術士とPEの相互認証は極めてハードルが高いと思われるが、日本技術士会との交流を行い何らかの結びつきを模索することはどうか。
- 一般へのエンジニアリングサービス提供 1件
 - 前述の質問回答に少し記載した一般向けエンジニアリングサービス。特に海外事業を行う中小企業を対象としたグローバルエンジニアリングのコンサルティング。例えば、技術文章の翻訳や、海外ベンダの不適合事項の管理などについて、アドバイスを行う事業を行うことはできないでしょうか？日本の製造業のグローバル化を促すことにもなり、有資格者が事業を先導することで、資格のアピールにも繋がると思います。

Q.3-3 調査研究活動類の中で、リーダーとして取り組みたいテーマ等

- JABEEとの連携 3件
 - JABEE(日本技術者教育認定機構)との交流 / シラバス評価英訳支援活動 / 協力団体との交流
 - シラバス評価支援、JABEEとの交流
 - (私自身がリーダーとして取り組めるほどの見識等があるわけではありませんが、興味があるテーマとしては) シラバス評価英訳支援活動:これがある意味で一番会員望んでいる支援だと思うため。NSPE Code of Ethics 和訳(技術者倫理):技術者倫理は必要なことだが勉強することは難しいため(仕事を通じて直面することはあっても、勤務先が教育してくれるわけではない、個人で系統だった知識を得るきっかけもなかなか無い)倫理を本協会が教育啓蒙することはある意味で本協会の活動で一番意義あることと思います。
- PMIとの連携 1件
 - PM協会との交流(相互乗り入れセミナー)
- 米国PEとの交流、NSPE Engineering知識体系(EBOK)の掘り下げ 2件
 - PE登録条件の州ごとの違いの整理と定期的な更新
 - 米国EMBOKに関する調査研究
- PEライセンス活用法、技術経営 1件
 - 技術経営。理由は前述の通り。やりたい気持ちはあるが、今すぐではない。私自身の知識量も含めて準備が出来ていない。

Q.4-1 ウェブサイト掲載内容のうち、統合あるいは廃止してもよいとお考えのもの

0件

Q.4-2 ウェブサイトに新たに掲載等して欲しいとお考えのもの

- オンライン会員交流 3件
 - 掲載してほしいというよりは掲載したいのはオープンフォーラム(会員同士の意見交換の場)。ここで資格登録やCPD取得、PMの情報など会員同士で交換する
 - ウェブのデザインのセンスがよくないと思う。もっと容易に会員相互のコミュニケーションが取れる場が必要。
 - 会員向けのページに会員のプロフィール(登録州、会社名など)の掲載。会員の了承を得た上で、かつ個人情報に抵触しない範囲で。
- JSPEおよび米国PEの活動状況 2件
 - 米国PEの活動
 - 前項にあったような、JSPEの活動報告をもっと掲載したほうがいい。また関連リンク集とか外部セミナーの紹介など
- PE登録に関する諸情報 2件

- JSPEに入会する方の動機は複数あると思いますが、中でも大きい動機の一つが「PE登録」だと思います。それに関する情報、プロセス内容を充実させることで「PE登録」という動機をきっかけに「技術そのもの」だけでなく他業種の方々と交流に面白味を見つけて、各会合へも積極的に参加するという土壌づくりにはならないでしょうか。

- PE/FE受験参考書(掲載済?)。受験・登録セミナーを行っておられますので、関連の最新情報がいつでも閲覧できるように、Amazonの書籍リンクを掲載するなどしては如何でしょうか。

● 記事検索機能、JSPEマガジン記事の一般公開 3件

- 記事の検索機能があると使いやすくなると思う

- 会報誌に記載している会員の起稿を厳選し、一般向けにも公開してはどうでしょうか? 資格者がどのような活躍をしているのか?を知りたい人は多いような気がします。

- ここに行けば他にはない情報があると思えるものが自分にとってはないのが現状。従って見ない。

Q.4-3 ウェブサイト上に、あなた自身がリーダーとして取り組みたいテーマ等

0件

Q.5-1 JSPE として米国PE 制度を包括的に解説する書籍の出版を企画すべき

● 類書がないかあっても古い 15件

- ワオ・コーポレーションの「めざせ! PE/FE」など既にあることはあると思いますが、古い内容になっていると思いますので、JSPEとして改めて出版するのは良いと思います。

- もし世の中にそのような書籍がないなら、世に出す価値があるのではないのでしょうか。

- ウェブサイトや発行されている書類などでは部分的に制度が解説されているが、背景も含めて、包括的に解説している書籍が無いのであると助かります。

- 以前一応そのような書籍はあったが、今と状況が違う(たとえば各州試験だったのがNCEES試験に統一された)ため。

- 一般に入手可能な書籍があることは認知度や存在感を高めることに寄与すると思います。

- 会員以外でもこれらの書籍等に触れられる機会が得られるから。

- 自身の受験の時、和文の参考図書がなくて、苦労したから。

- 自分自身もそうでしたが、受験及び登録に際して日本で得られる情報が少なすぎる。また、JPECの対応も親切とは言えない。

- 類書がなくニーズはあると考える。

- 米国PEとはどのようなものが掛かれた書籍などは、あまり存在しないので、このような企画を不定期、ないしは5年程度に1回程度、出版するのは、JSPEの活動を知って頂くという意味でもよいのではないかと思います。

- 米国PE制度の存在の情報発信、資格取得者の拡大等

- 情報がなすすぎるため

- 現在、書店に日本の技術士を解説した本はあるが、PEを解説した本は無い。また、書籍であれば工学系大学生に教科書(進路判断の材料)として購入してもらっても出来る

- 国内にその類の書籍がない

- 参考にできる資料が多いことは望ましいし、peを周知してもらえるきっかけにもなると思う

● 国内PEの認知度、地位向上 27件

- 理由: 米国PE制度に関する啓蒙になる

- 知りたい人が自分で調べれば良いという考え方もあるが、認知度を高めるためにも制度や試験についてまとめたものがあつた方がよい。

- 積極的な提案はどんどんやるべき

- 日本でのプレゼンス向上のため

- 日本では技術士に比べてPEの認知度が低いと思います。アピールが必要ではないのでしょうか?

- 日本の技術士に比べ、認知度が低いため。

- 日本国内での認知度向上のため

- 認知度を上げるため。

- 情報発信を進める意味で

- 世の中の理解を得るために良い方策と思う。

- どのような資格であるかの周知に繋がると思うため。

- PE制度の認知度が低いため。

- PE制度を広く知って頂くためには、書籍が必要

- 一般に向けて認知度を上げるため

- PEの社会的プレゼンスの向上

- PEの日本におけるステータスの向上に役立つと思う。

- PEの認知度が高くなく、技術士との違いを知らない人がほとんど。

- PEの認知度の向上の為

- PEをより理解してもらうためには必要

- 技術士に比べて、PEの認知度は低い。認知度を高めるためにも必要と考えます。

- 技術士よりも世界的な知名度を有するにもかかわらず国内の知名度は低いため

- 技術倫理の先駆者である米国の状況を知ることは、技術倫理の普及に役立つと思います。

- 国内で、認知させるには必要と思います。

- 私がPE/FE受験を考え始めたときに書籍を読んだ記憶があります。その書籍は横須賀基地が試験会場時代のもので、最近の事情を国内に知らせるためにも、企画してはどうかと考えます。

- JSPE として米国PE 制度が、日本での認知度が低い

- PEという肩書は日本ではまだまだマイナーだと思います(知っている人は知っている)。知名度向上のためにも出版することは一手だと思います。

- PE受験を目指す潜在的な人数はかなりいると思われる。それらにPEの受験を促し、フィードバックによる情報の充実や、団体の認知度向上が図れる。

● 米国PEに限定せず、より幅広く 4件

- 日本では技術者が医者や弁護士のように専門性と難易度が正しく認知されていない。これを是正する目的なら賛成。
- ただし、米国peに特化することは、読者を限ってしまい、資金回収できなくなるのでは。やるなら、世界のライセンスを紹介したほうがよい。
- そうは考えない理由を記載する欄がないので、ここに記載します。現状では「PE制度」の将来像を考えている。世の中のあらゆる「士」と言われる資格が問われている時代、プロフェッショナルの将来を考えたい。そこに回答が見いだせない時に、過去の遺産だけで出版を行うことを不安に思う。但し、「PE制度」の中の要素には未来永劫に活かせるものも必ずやあるはずで、それらは残るであろう。そこらへんを十分に吟味したい。
- 制度はそこそこにして、PEライセンス取得の利点を日本社会に広めて若手エンジニアの質並びにモチベーションを高めること

● その他 2件

- あるといいと思うが、出版に伴う負担を考えると、そこまでの優先度は高くない
- 必ずしも出版は必要ないかもしれないが、何らかの広報活動が必要。企業内でFE/PE受験準備講座をしたことがあるが、関心が高かった。希望者が20名ほど集まり、10回以上の講座を行ったことがある(昔のことなので回数は忘れました)。2名ほど受講後、FEを受験して合格した。(ただし残念ながら2名とも、合格後すぐに会社を移ってしまった。) 企業内では向上意欲を持った人々は、いつもかなりいるようだ。

Q.5-2 あなた自身とその新書籍上で執筆したいテーマ等

● PEの倫理、権利、義務、責任 3件

- PEの権利と義務、社会的責任
- 海外エンジニア、プロジェクト情報、技術倫理
- 取得して時間が経過して、かつPEライセンスを活用するような仕事はしていませんので、お役に立てるかわかりませんが、機会があれば、技術者としての会社生活にどのような意味を持ったか、刺激となったか、といった感想文程度となりますが。。

● これまでのシラバス英訳支援の成果 2件

- これまでのCE評価結果については何らかの記載はできると思う。
- 学歴審査と国内大学卒業のギャップ。州登録条件の違い

● その他 5件

- すでに資料はある
- 具体的にどのような内容が書けるか現時点では不明ですが、何らかの形で携わっていきたくと考えています。
- 現段階で具体的には無いですが、協力できる場所があれば協力したいと思います。
- 広範囲な知識の習得に役立つこと
- 受験に臨む考え方や勉強法にアドバイスができるのでは。

Q.5-3 米国PE 制度を他の方に説明する必要が生じた場合等にあなたが日頃参照される書籍や資料など

● ウェブサイト 11件

- JPECホームページ
- JSPE Web Site
- JSPE, NSPE, JPEC のWebサイト。
- JSPE, JPECのHPや活動内容からの資料を主に参照させていただきます。
- NCEESのWebsite。
- 各州のPEに関するホームページ
- JSPEの受験TIPS, JSPE/JPECのホームページ
- JSPEやJPECのHP
- JSPEやJPECのWEBサイト。英語が分かる人は自分でNCEESやNSPE、各州のボードを見に行くので説明はあまり求められません。
- 米国各州PEボードのWebページ
- ネット情報。各州のボードやNSPEのホームページから有用な情報がえられる。

● 書籍、雑誌記事 10件

- PE試験の参考書「Mechanical Engineering Reference Manual for PE Exam」
- PPIの参考書、問題集
- 国際資格 プロフェッショナル・エンジニアへの道 単行本 - 1994/5 日本PE協議会(著)
- 20年位前に出版されたPE制度の解説書
- ASME Section III Mandatory Appendix XXIII
- JPECの廣瀬理事が雑誌に寄稿した記事、PE/FE取得に興味のある学生への説明会資料
- JSPEのHPやPE教材のReference Manualを使用します。
- めざせ!PE/FE ワオコーポレーション
- 昔はあったが、もう古くなっている。
- あるがすぐには思い出せない。

● JSPE内部資料 2件

- JSPEのさまざまな過去資料
- 過去のJSPEセミナーで配布された説明資料

● 勤務先の内部資料 1件

- 社内資料

Q.6-1 NPO 法人格を維持していく上で、常駐職員を置くべき

● 理事の業務負担軽減 15件

- JSPE理事は仕事が多く(そう感じる)、本業との平行業務は容易ではないと思う。常駐職員を置けば、常駐職員が専任で対応できるため、JSPE理事の業務負担は減る。

- 会員有志の手弁当での活動には限界あり、事務・会計などを主務でやってくれる一名だけでも役員の方の負担が相当軽くなるのでは？

- ボランティアでやって頂いている理事の皆様の負担軽減に結びついたら賛成

- ボランティアには限界があると思うので。(ただ、財政規模の問題は確かにあると思う。)

- ボランティア対応者の負担軽減のため。

- ボランティアでの事務局運営は負担になると考えるため。

- 経費などの問題もあると思いますが、可能であれば、JSPE理事がボランティアで取り組むにはかなり過酷だと思います。残念ながら、日本社会ではボランティア活動に対する認知度が低く、会社・業務優先という方が多いのではないのでしょうか。

- 事務的な作業(メールやその他準備)は常駐職員が行ったほうがよいと思います。お姉さんなら間違いなく皆さんの同意を得れると思います。

- 将来的に考えおく必要はあると思う。

- 常勤ではなくても週に一度くらいは事務所を管理する職員がのぞましい。

- 負担が大きいのと思われるため

- 理事の負担減の為。

- 理事の方々の負担が大きいため。

- 運営を行っている有志の会員もそれぞれの仕事があるので、JSPEの業務も行うと負担が大きいのと思うため。

- 一般的なNPO法人では常駐職員がいる例が多いこと。また、シニア世代を有効活用する目的として常駐職員を置くのもよいと思います。

● 会員等へのタイムリーな対応 4件

- タイムリーな対応を考えると、事務局的な人はいた方がよいと思います。

- 会員の負担を減らすため

- 運営を円滑にするため

- 常駐職員(パートや曜日限定でも良い)が不在のため、会員の事務手続きが煩雑になっている面がある。例えば、会費をダイレクト銀行やクレジットカードで支払えない。

● 必ずしもそうではない 3件

- NPO法人を維持する必要条件が常駐職員ならそう考えるが、必要条件で無いなら、必ずしも必要とは考えていない。

- 有志の方(理事・幹事)のご負担がどの程度なのかに依ると思います

- 私自身が会員対応でタイムリーに答えられていないのではないかと後ろめたさがあります。現状のような緩やかな対応でもご容赦いただけるのであれば、常駐職員を置かずもやっていけるとは思いません。

Q.6-2 置くべきではない理由等

● 職員雇用のコスト負担が過大 14件

- コスト負担が大きいため

- 協会規模として無理がある

- 経費縮減

- 会員費増額に繋がるため

- 財政規模、活動内容から常任の必要性を感じないため。

- 金がかかるから

- 実際的に、その投資対効果はないであろう

- 現状の運営で支障をきたすのであれば最低限の職員をおいてもよいと考えますが、人件費のため積極的に職員を設置すべきではないと考えます。

- 経費が掛かる 常駐するだけの業務はない

- 規模が小さいので、経済的に成り立たず、また、置くことで規模が大きくなることに繋がらないと思うので。

- 事務所や常駐職員は、固定費の増大を招くため。今はリモートワークの環境も整ってきているため、できるかぎり、ITツールの活用で安価に抑えた方がよいと思います。

- 常駐職員の給与等の財源の確保が難しいと思うので。

- 給与の支払い等で会費が高くなる

- 運営費用・経済面から考えるべきでしょう。ただボランティアでされている方の負担が大変でしょうね。

● 常勤でなく非常勤なら検討してもよいか 4件

- 常駐までは必要ない。週2、3回程度ならば必要。

- 常駐までは不要だが、電話あるいはメールに適時対応できる理事OBの方々に担当理事などで対応していただくことの検討は必要かと。

- 適切な頻度、速度でレスポンスが返せれば常設である必要はないと考える。理事の負担と費用を考慮するのであれば、平日の1-2日の数時間対応してもらう専用のリタイアされたpeにお願いするのもアリだが

- 常駐が日勤を意味するのであれば、仕事量・費用の観点から不要。但し、非常勤の場合は、その費用・経費を考慮して検討する。

● もっと規模が大きくなってからでよい 1件

- もう少し知名度が上がってからでもいいのかもしれないと思っています。

● 適切な人材の発掘が困難 1件

- 適切な職員の人選及び人員確保が難しそうであるため。

● 現状の理事ボランティアでよい 11件

- 常勤職員を置く必要がないと判断された結果によるものと考えるから。現状のままで長年運営できているから。

- 理由は特に無いが、現状必要と感じていない

- 常駐するだけの仕事量があるとは思えない。

- 常駐の必要はないと思う。

- 現状維持で良いと考える。
- 常駐職員を置かず維持しているNPO法人もあることから、常駐必須とは思わないが、活動内容や量とのバランスにより判断すべきであり、現況を把握していないため「わからない」とします。
- 現状、常駐職員がいなくてもJSPEとしての機能に支障が生じていなければ、あえて常駐職員を採用する必要はないと考えます。
- 常駐するほど仕事があるとは思えません。それより会員サービスにお金を使ってください。
- 今は電話がなくても、業務ができる時代
- 常設理事を置くことがNPO法人格を維持する上で必須ではないなら置く必要はないのではないか。それとは別で活動を活性化させる目的での設置であれば賛成する。
- そのために外部者を雇うことは無理である。

Q.6-3 常駐職員を置くことができるか何かアイデア等

- 定年退職会員の協力 2件
 - 定年を迎えた人のボランティア
 - 例えばリタイアされた方など
- パートタイマーの協力 4件
 - パートタイマーの設置(1日2時間程度事務所で作業)
 - 曜日と時間帯を限定する。
 - 非常勤とする
 - 「そう考える」と回答しておりませんがアイデアを列記します。 曜日を限定する、ボランティア、JSPE会員の家族の協力(申し訳ないが格安で)、企業をリタイアした元エンジニア(申し訳ないが格安で)
- 企業や大学の協力 6件
 - スポンサー、会員獲得などあらゆる面で歳入を増やす
 - 先ず財政規模の拡大…大学・企業に法人会員となってもらい、法人会員費を徴収すること(JSPEからは、PE登録セミナー、PECONで得たの最新アメリカの情報提供等)で双方のニーズは一致すると思う。法人会員費は年10万円程度でも問題ないため、財政規模が拡大できる。その費用を使って、常駐職員を置く。次に、常駐職員は本業を退職したPEにお願いするなど、これから増える定年後の世代を考える。
 - スポンサーを募る。NSPEとの連携強化(予算に影響するかは難しいところだと思いますが)
 - 大学などが行う企業人向けの研修会などに有料で講師を派遣する。あるいはそういった会を企画する。
 - 企業などに法人会員となってもらい、会員費用を取得すると共に、海外の最新情報や、ヤングプロフェッショナルを育てるトレーニングの提供、分科会を設置し、研究成果を発表するなど。
 - 難しいですが収入を増やす方法が第1だと思います。何故PEの資格を取るのか？から考えてゆくの
 - 一つの方法でしょう。PEの資格での実利は、具体的にほとんどありません。唯一言えることは、受験準備のために勉強したことが得難い経験でした。ここに焦点を合わせて、学校卒業してから5年~10年目のエンジニアを対象とした技術力見直し、upのための制度の1つとしての利用方法を考えてはどうでしょうか？
- 会費の値上げ 2件
 - 会員の年会費アップ
 - 会費の値上げ。
- その他 2件
 - JPECとの統合
 - 常勤でなければ対応可能。税理士事務所の活用は廃止してその予算を配分する。

Q.6-4 目的、活動種類および事業区分について改正すべき

- 一般へのエンジニアリングサービス提供 1件
 - すぐには難しいかもしれないが、JSPEの有資格者らによる中小企業のグローバル事業を対象としたエンジニアリングコンサルティングサービスができることを期待しているため。
- その他 1件
 - 「そうは考えない」…理由は、定款の定義は将来的な変化があっても対応できるように書かれているので、その解釈のもとに時代にあった「実のある」活動計画をつくれればよいだけ

Q.7-1 現金資金の活用策としてその他

- 会費の値下げはすべできない 4件
 - 値下げではなく維持し、現状の資産は今後の発展のための原資とする
 - 初期の頃(00年~05年頃)はほぼ資産ゼロで、例えばNSPE総会への参画も、ほとんど自腹だったように記憶しています。会費値下げなどではなく、活動の活性化につなげるため、一定金額を確保し、活用していく方針が良いのではないのでしょうか。
 - PE資格が日本国内においても重要かつ有効性のあるものとして認知されるための活動に活用すること。国際的な有効性では技術士より上位にある資格として認められるべきと考える。
 - とにかく資金は、現状保有しておくべきで、具体的アイデアが出たときに使うべきです。
- 会費の値下げ 3件
 - 長期会員(例えば継続して5年以上会員からの2年間の会費免除。将来リスクとして総会費収入の1年分は保全する。
 - 現状有効な企画ができずに、結果として余剰が積みあがるのであれば、会員の負担低下は必然である。有効な企画が出てきたら元に戻せばよいだけの話
 - AF会員の会費を無料にし会員数の増加を目指す
- ウェブセミナー、オンライン会員交流への投資 4件
 - セミナーを録画し、オンデマンドで流す。そして、オンデマンドで受講した人から会費を徴収する代わりにPDHを発行する。用にも資格所有者の多いPMP会員向けに、PDHも発行すれば、それなりに一般視聴者も獲得できるのではないかと思います。

- Web配信の拡充であるが、問題は機器購入ではなく、配信実施者(森さんのような)。外注は高いと思うし、サポート会員を増やす。必要に応じて謝金を支払うのがいいか
- 全セミナーのウェブ配信化など会としてのインフラに投資するのが一番だと思う。下手に会費を下げる
と際限なくなる可能性もある。リタイヤして、過去何年以上JSPE会員であれば会費を無料(ただし
JSPEの活動に積極的に関わること)という制度を導入するではどうか。リタイヤと同時に退会される
(経済的理由により)方も多いと思うし、ネットワークがなくなるより残っている方が会としての地力になる
と思う

- コラボツールを導入し、会員同士の交流を促進するオンラインサロンを開設できないでしょうか？

- 準常駐職員の雇用 1件
 - 会運営が理事メンバの善意のボランティア精神にのみ依拠していると持続可能性に不安があります
ので、資金面で許容される範囲での準常駐職員の必要性はあろうかと思えます。
- セミナー活動への投資 5件
 - 役員の方や、セミナー講師への謝礼金の増額
 - セミナーの充実とその講師への支援(講演費、出張交通費等)
 - 理事や運営に参加されている方々への金銭面での補助向上
 - 会員の技術力維持・向上のためのCPDセミナーの活発化(講師への謝礼や会議室のレンタル料とし
て活用)
 - セミナー回数の増加(謝礼等に利用)。セミナーの利便性増加(Web会議化)
- 対外交流、新規調査などへの投資 5件
 - 新企画やNSPE派遣費補充
 - 海外研修費等への活用
 - 数年をかけて特定の課題解決に対して予算をつけて行くのいいのではないか。例えば2020年に向
けて世代交代が課題としてあるのであればその解決のための活動など。
 - 情報収集と発信。PE/FE合格のための虎の巻のようなもの。
 - 日本国内での他の工学会(例:建築士会・建築設備士会など)に対する啓蒙活動に充てる。

Q.8-1 PE登録を実際の業務等で活用している。その他

- PEスタンプを押す 3件
 - PEスタンプを押した経験がある(3回)。
 - 機械系分野にてPEスタンプを求められたのは1回のみであり、活用機会がほとんどない。
 - PE登録後にASME規格の要件でPEスタンプを活用予定。
- PEと名刺に書く 3件
 - 名刺に記載し、自分の技術力を顧客にアピールすることに活用している
 - 名刺に書いている程度でそれがどのように効果を発揮したかは定かではない。PEと書いた名刺を
20年使っているが、少しは信用が得られたかもしれない。
 - 日本国内では特に活用していないが、海外メーカーと交渉の際は、自分の話を聞いてもらうため、PE
であることを開示している(メールの署名欄、名刺)。
- 国内企業へのコンサルティング 1件
 - 国内企業へのコンサルティングの際に活用している。
- PE登録申請者へのリファレンス 1件
 - PE登録申請者の推薦者として活用している。
- その他 1件
 - ① 国内のエンジニアリング専門会社は、米国案件においては、個人が負う無限責任やそれに対する
Professional Liability Insuranceに対する対応ができないなどの理由により社員がPracticeすることを実
質禁じています。米国プロジェクト案件においては、サインを要するPE業務を現地企業にサブコンしてい
るのが実情。土建・電気・設備配管などbulk materialを扱う設計業務は、工事と不可分であるし、現地の施
工業者との関係も深い人間や企業でないとな業務ができないというのが背景にあると思います。米国PE
制度の取得率が最も高いエンジ業界が、このような結論に至った点については、他業界の皆さんも含め
て考える必要がありそうです。そういう私自身もPE業務を米国でPracticeする機会はありません。
PE資格を取得する意義は日本人にとって何か？PEを持っていない他の日本人と我々は何が違うの
か？今こそ我々の原点の再確認を…
 - ② 国内のエンジニアリング専門会社及び大手機械メーカー等が軒並み北米EPC案件において赤字計上
しているのはなぜか？ほとんどはEPCの工事部分で生まれています。米国PE資格保有している日本人
エンジニアが多数いるにもかかわらず、このような帰結になるのはどうしてか？エンジニアには全く無関係
の事柄か？JSPEの会員の中には北米プロジェクトに関与した人も多いため、一度議論をしてみ
る必要があるのではないかと『商務に関わることであり、エンジニアの私は知りません』というスタンスは
少なくともJSPEとしては許されないのではないかと？世の中の人々よりは、米国流の仕事のやり方を多少
知っているのがJSPE会員ではないか？『米国』ということに力点をおくのであれば、益々その必要性は
高い。少し脱線しますが、私の個人的な意見としては、JSPEは『米国』に固執する必要はないと思いま
す。米国流より更に広く欧州やアジアの考え方の多様性も知っていることを我々の強みとすべき。必要
であれば米国にも意見を述べられるくらい目線の高さを持てるように精進したい。

Q.8-2 PE登録活用による社会貢献範囲を拡大しようとする場合の活動。その他

- 一般へのエンジニアリングサービス提供 1件

- 前の質問に記載したコンサルティングサービスを行いたい。まずは、会員同士の交流を促進するオンラインサロンを解説し、技術的な知見を集積できる体制を作った上で、JSPEが窓口となり、中小企業向けに専門家のアドバイスができるサービス体制を構築することはできないかと思ひます。働き方改革もあり、副業として関心のある人は多いと思ひます。また、コンサルティングサービスは、個人で始めても中々受注が難しいですが、団体として、また、オンラインサロンから得られる知見を背景としての受注であれば可能性が上がると思ひます。

- 国内技術者制度の改革 4件
 - 米国側からの働きかけを得て諸制度の変更に協力してもらう。
 - 技術的ミスによる災害の防止に重点を置き、実務能力を重視した資格であることを国内向けにもアピールし、日本の技術士との住み分けを図って国内活用も促進すべきと考える。
 - 日本でもPEのように法的な権利義務が明確な資格制度の導入が必要。
 - 日本政府やJICAが、資格を加点対象とすること。現在は、技術士のみが加点対象。
- メディアへの露出促進など 3件
 - 大したことではありませんが、例えば名刺に記載して、折を見てどのような資格であるかを説明するなど、その程度はしています。ただ残念ながら、日本国内では日本の技術士との相互認証とか、関連付けとか、そういったものが必要な感じがします。例えば、会社には社員で構成する技術士会はあります。一方で、PEは最近ようやく、会社の自己啓発の保有資格でも記載されるようになりましたが、まだまだほとんど認知されていません。まずは、学会誌や業界誌等でのコラムを持つなど、認知度を上げていく活動が必要かと思ひます。
 - メディアへの露出の頻度増加。放送大学への積極的売り込みや、主要新聞での活動紹介記事の投稿など。
 - JSPEから情報発信をする。
- まだ何とも言えない 3件
 - 国内では、遅れて始まった技術士制度の方が、現時点では認知度・保有者数も上である状況かと思ひます。一般的な問いとしても技術士とPEとはどう違うのかということが挙げられると思ひます。具体的な考えはありませんが、認知度を上げることかとも思ひます。
 - PE取得はしたが、未だ理解できていない部分も多々あるため、まずはいろいろ調べるなどして、理解を深めたい。
 - 今のところ社会的認知がないので、実利はない。日本機械学会、日本技術士会にも入っているが、会費は同額程度で、日本機械学会以外は、まったく実利がない。社会的認知が何といつても重要。

Q.9 以上の設問等に関連して、他にご意見などありましたらご記入下さい

- 理事中心から会員主導へ 2件
 - 理事が頑張ればいいというのは避け、会員みんなで運営していくスタイルにしたい。現状では理事になるモチベーションが湧きにくい。
 - * 執行部の2年毎の入れ替えなどを通じ、多くの会員に運営を経験して頂き、実情を理解すると共に活発化する。
- 技術士との連携 2件
 - Has NSPE ever asked that you or another internationally associated organization promote something in particular? If so, what? I think that promoting the PE and the values behind it are important. I do not understand (yet) the Japanese licensing system, but have heard that continuing education is not a requirement. I find that pretty amazing. I would think any professional organization would require continuing education to maintain a license or credential. Does JSPE interact with the Japanese licensing organization of engineers? I would think that should be one of your partners.

 - JSPEは、日本でPEを理解している唯一の組織かと思ひます。日本の技術士とは、異なり、別の視点でエンジニアリングを見れる立ち位置の優れた組織と思ひます。なかなか、参加する時間を取るのも大変なのですが、協賛していただけるスポンサーなどがあって資金があると運営も少し楽になると良いのではと考へたりします。役員の方々のお忙しさを見ていますとそうに思ひます。今後ともよろしくお願ひいたします。
- 時事問題への意見発信 1件
 - 安全工学シンポは、現役時代に参加したことがあるが諸外国との差は歴然としている。プラント分野では欧州のLoss Prevention Conference、米国AIChE CCPSなど長期的に地道な活動を行う集団が存在し、かれらが将来のCodeを検討しGlobal Standardを作っていること。安全に関しては、これらの団体が今議論していることをwatchすれば2、3年後の世界が見えるというのが現状。ではJSPEとして何をすべきか？北海道地震、西日本豪雨などで見えた技術的課題、不祥事などの情報収集を必ず行い、議論し資料を蓄え共有するだけでもすばらしい。JSPEのWEBに行けば常にこれらの情報が得られるという存在になることなど…PE制度の未来永劫に必要な要素を因数分解してみてもどうか？集中検討会の意味をまじめに考へたい。熱海の懇親は本当に必要か？その費用扶助の大義は？しらふで複数回、関西・関東など何回でも実施し、理事陣が全国行脚してもいいのではないか？その旅費負担は認めたいと思ひます。
- 会費の値下げ 1件
 - 他の学協会に比べて会費が高いので値下げを考へていただきたい。
- 会員間交流 14件
 - 2011年頃、会員名簿を公開できない中でも会員間の交流を促せないかという議論の中でSNSが使えるかもしれないという話があった。その時に自分でもFBのアカウントを作成したが結局自分自身がFBのあり方に疑問を感じたために当会での実効ある利用に全く貢献できず、全くそういう流れにはならなかった。時が経ち、社内で有志がYammerを介して業務改善や働き方改革などについて議論しているのを見ると、今ならばそういう形での会員間交流も可能なのではないかと感じる。再度トライしてみる価値は無いだろうか？

- 自分の実感として現状の活動は本当によくやられていると思います。
- 書籍の発行については、以前「めざせPE/FE」が日本能率協会マネジメントセンターから発行されており、既に廃刊になっている。新たに発行しても同じ道を辿るのではないか。書籍を発刊するのではなく、技術者が購読する雑誌等に記事を寄稿するような活動が良いのではないか。
- 最近、入会したばかりでありあまり分かっていないかもしれません。
- 東京、大阪に居ない為、情報不足です。
- PEの知名度向上のために、大学などで何か活動しては銅でしょうか。学生会員制度導入やFE受験支援など
- こういふ会員の声はウェブなど常時拾える仕組みが必要。
- 特に無し
- 今後の活動を考える上で大変重要な質問でしたが、中々私自身どうしていきべきか意見が固まっていない状況です。
- バックシートに載せて載っていることを再認識しました。
- 各設問で書きました。
- CPDセミナー等のセミナーのいくつかをウェブでも受講できるようにしていただけると有り難いです。
- PEを取得するということに対し、確かに日本で活用する機会はほとんどないが、Engineerとして自分自身の責任感や倫理感を高めることが出来るのでそれはそれでよいと思う。活動に参加できていなく申し訳なく思うが、とはいえ一度参加したいと思うテーマのセミナーがあったが、他の方も参加したいと思うようで、はやく定員で締め切られていて残念に思ったことがある。それでも会場を広げるなどJSPEの方がいろいろ苦勞されていたのは理解している。アンケートに答えながら、とりあえず思いついたことを書いてしまいました、すみません。
- 回答が不適切かもしれません。申し訳ありません。まずは、PE登録を完了させたいと思います。

● 合宿検討会の可否 1件

- 都内ではなく温泉地で開催は良くない。会員参加でなく理事主導で。費用は予算内で。